

# 文教常任委員会 特定テーマに関する調査研究報告書

## 1 テーマ

### 『スポーツ振興を通じたすこやか兵庫づくりについて』

スポーツを通じて健康の増進を図ることは、人生を豊かにするとともに活力ある社会の形成に不可欠であり、誰もが年齢や体力に応じて「いつでも、どこでも、気軽に」参加できる機会や場の整備が求められている。特に、2021年には『ワールドマスターズゲームズ 2021 関西』が開催されるため、その機運の盛り上げを図っていく必要があることに加え、2021年の東京オリンピックに向けたトップアスリートの育成や神戸マラソンをはじめとした県民スポーツの振興等も期待されている。

一方、近年、子どもの体力、運動能力は低い水準にあり、また、運動をする子としない子の二極化も見られる。体力は、人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きくかかわっており、「確かな学力」「豊かな人間性」とともに「生きる力」を育成する上で、極めて重要である。体力の低下により、ますます体を動かさなくなり、一層の体力低下を招くといった悪循環に陥ることとなり、子どもの体力の向上とスポーツの振興を関連付けた方策が必要である。

このため、スポーツの一層の振興を図り、すこやか兵庫を実現するための施策・取組みについて調査する。

## 2 調査・研究の内容

### (1) 当局の取組

○開催日 令和元年10月28日

○場所 第7委員会室

○報告者 教育委員会事務局 体育保健課 山根課長  
スポーツ振興課 長島課長  
榊 参事  
北中参事

○取組内容 — 特定テーマに関するもの —

○主な説明等

【児童生徒体力・運動能力について】

〔児童生徒体力・運動能力調査の結果〕

- ・ 昨年度、小中学校男女とも全国平均を下回っている。
- ・ 「運動やスポーツが好き」と回答した児童生徒は、小学校女子を除いて、全国平均を上回っている。
- ・ 1日1時間以上運動していることを示す1週間の総運動時間が420分以上と回

答した児童生徒は、小中学校男女とも全国平均を上回っている。

#### 〔「体力アップひょうご」サポート事業〕

- ・ 体力運動能力の現状及び課題の分析・検討を行う体力アップサポート専門家会議を開催。
- ・ 専門的指導力を有する地域のアスリートや公立中学校・高等学校の保健体育科教員を体力アップサポーターとして希望する小学校に派遣し、体育事業において子供たちが運動のコツを理解し、体得できるよう支援をしている。
- ・ 地域のスポーツ推進員や公立中学校・高等学校の保健体育科教員を新体力テスト測定支援員として小学校に派遣し、効果的な準備運動等の指導助言を実施。
- ・ 幼稚園及び小学校体育担当者を対象に運動プログラムの普及や運動実践事例の報告及び競技を実施。
- ・ 体力向上に向けて優れた取組を行い、成果を上げている小中学校を表彰。
- ・ 体育保健課のホームページに、動画サイトを開設し、投能力向上をはじめとした指導法をまとめた短編の動画を公開、活用促進を図ることで、教員の指導技術を高める。

#### 【競技スポーツの強化策】

##### 〔タレント発掘・育成事業〕

- ・ 中学生の強化を図るスーパージュニア育成塾、小中学生から才能ある選手を発掘・育成するジュニアスポーツ教室、ゴールデンエイジ・プロジェクトとして小学生にさまざまなスポーツの紹介や、オリンピック選手のスポーツ教室を通じて、競技人口の底辺拡大に加え、特に高いレベルで活躍が期待できるタレント発掘を目的としたひょうごジュニアスポーツアカデミーを展開している。
- ・ アスリート強化として、オリンピックや世界選手権等で活躍する選手の輩出を目指した未来のスーパーアスリート支援事業を展開。

関係競技団体から推薦のあった有望選手に海外合宿、専門家からの指導を受ける医科学サポート等の支援を行っている。

- ・ 国体等での活躍が期待できる競技実績がある選手の強化を図る選手強化事業では、オリンピック種目に特化した重点競技強化事業、国体で安定した得点を獲得している競技の強化に取り組む特別強化、国体全競技種目の競技力全体の底上げを図る一般強化事業を展開している。

##### 〔科学的知見の取組状況〕

- ・ 科学的知見の取組として、ひょうごジュニアスポーツアカデミーや未来のスーパーアスリート支援事業、医科学委員会の設置を行っている。

##### 〔指導力強化〕

- ・ スポーツ指導者海外派遣事業や公認コーチ・上級コーチ養成講習会派遣事業を通じて、世界の第一線で活躍できる選手の育成強化に対応できる指導者を養成。
- ・ 若手指導者を中心に、中央競技団体等が開催する研修会への派遣。

##### 〔人材流出対策〕

- ・ 全国トップレベルの実力を有する中学生・高校生も多く、優秀なスポーツ選手を輩出する一方、他県の強豪校や大学進学を機に首都圏に流出してしまう現状が

ある。

高い指導能力を有する、魅力あるスポーツ指導者の育成、オリンピックや世界選手権等を目指すトップアスリートの強化支援を展開するとともに、兵庫県出身のトップアスリートが県内企業に就職しやすい仕組みづくりを体育協会と連携しながら検討。

#### 〔ハード整備の必要性〕

- ・ スポーツ施設はスポーツの基盤で、県民がスポーツに親しみ、楽しみ、支える活動に参画することができる環境の実現が重要であるため、保有する庁舎、公的施設等について、長期的視点から財政負担の軽減・平準化を図りながら、老朽化対策等に計画的に取り組んでいる。
- ・ 大規模スポーツアリーナの設置についても研究していく。

#### 【生涯スポーツの活性化策】

##### 〔ひょうご女性スポーツの会〕

- ・ 国の第2期スポーツ基本計画の施策の目標にスポーツを通じた女性の活躍促進が示されたことを受け、県のスポーツ推進審議会における女性スポーツの更なる推進の意見も踏まえ、県下13スポーツ団体の協力を得て女性スポーツを支援する新組織として平成30年12月に設立。
- ・ 座談会として、女性スポーツの現状把握や次年度に取り組むテーマなど方向性を検討するため、エグゼクティブアドバイザーを交えた意見交換会を開催。
- ・ 組織の連携強化やワールドマスターズゲームズ2021 関西への参加促進を図るため、各競技の枠を超えて、ドラゴンボートやオリエンテーリングなど新しい競技に取り組む研修会を実施。

##### 【東京2020オリンピック・パラリンピック応援事業】

- ・ 事前合宿の招致活動として、6市11団体の受入が決定。2団体が内定し、4団体と交渉を進めている。
- ・ 聖火ランナーは倍率が全国最大となる応募があり、5月に聖火リレーが実施。  
第一区間となる豊岡市・神戸市では県が主催する出発式を行い、最終区間となる姫路市・丹波篠山市では聖火到着を祝うイベントを実施。

##### 【ワールドマスターズゲームズ2021 関西の開催への取組】

- ・ 国際マスターズゲームズ協会が4年ごとに主宰する概ね30歳以上のスポーツ愛好者であれば誰でも参加できる生涯スポーツの国際総合競技大会で、2021年5月14日から17日間開催される。
- ・ 周年イベントやリハーサル大会の実施、大会の知名度の向上など、組織委員会や開催市町、競技団体等と連携して準備・運営に取り組む。

##### 【神戸マラソン】

- ・ ランニングを核として県民スポーツの振興を図り、阪神・淡路大震災の復旧・復興における支援への感謝、兵庫・神戸の魅力を国内外に発信。

#### 【ひょうご教育創造プラン・スポーツ関連指標低迷の原因分析と対応】

##### 〔第2期ひょうご教育創造プランに係る指標の達成状況〕

- ・ 大学や企業と連携したスポーツイベント等の開催に取り組むスポーツクラブ21

ひょうごの割合の達成率が 815 クラブ中 157 クラブと 19.3%となっている。大半が神戸市・加古川市で、その他の市町は企業・大学が少ない等の理由で連携が進んでいない。対応策として、スポーツクラブ 21 ひょうご関係者を中心に各市町スポーツ推進委員や大学・企業等のスポーツ関係者を交え、研修会や情報交換会を行う全国スポーツサミットの開催や、スポーツクラブ 21 ひょうご全県連絡協議会と兵庫体育・スポーツ科学学会との連携協力協定を結び、大学施設の活用や大学の指導者をクラブに派遣することも可能となった。

### ○主な意見等

- ・ ワールドマスターズゲームズの開催地でない競技も競技参加を促していく取組の強化をしてもらいたい。
- ・ 大規模アリーナについて、どこで設置するか等突っ込んだ検討をしていったらよいのではないか。
- ・ タレント発掘・育成事業で選手の強化に取り組んで、それなりに成果が出ていると感じているが、更に取り組を強めてほしい。
- ・ アスリートの県外流出の要因について、運動部を保有する企業の減少があるのではないか。
- ・ 子供の体力について、都市部では外で遊ぶ環境が限られ、家庭で経済的に余裕がありスポーツクラブに通わせられる子供とそうではない子供では落差が激しいのではないか。
- ・ 淡路島の小学生の陸上競技大会参加者も減少しているが、その理由は①少子化で指導者が減った②陸上より、サッカー・野球に人気偏在しているからではないか。
- ・ 子供の体力問題で柔軟性が大事である。体力アップサポート事業で先生の研修の場になっているのは、大変よい。
- ・ 子供の体力テストについて、もっと時代に合った測定方法があるのではないか。
- ・ 高校のクラブ活動について、能力のある子が機会を失わないよう、せめて国体・オリンピックがある競技は、地域バランスを考えてクラブを設置していかないといけない。

## (2) 専門家の意見聴取について

○開催日 令和元年 12 月 11 日

○場所 第 7 委員会室

○報告者 大阪ガス株式会社 近畿圏部 地域活力創造チーム 朝原宣治マネジャー  
～スポーツによる地域活性化・子供から大人までスポーツに親しむ(普及)  
・トップアスリート指導～

### ○主な内容

#### 〔クラブの設置〕

- ・ 今、スポーツをする機会を得るのが難しい。
- ・ ドイツは、地域に根差した企業のスポンサーがいて、日本の部活動とは違う地域総合型クラブのシステムが進んでいる。
- ・ 日本には、部活動というシステムがあるが、最近立ちいかになくなっている状況も

あり、外部委託する行政も増えている。地域に根差したクラブがその代わりを担うようになるのではないかと、大阪ガス株式会社の福利厚生施設のグラウンドを使い、トラッククラブ（NOBY T&F）を開設した。

#### 〔クラブでの指導〕

- ・ 小学生・アスリート・長距離・一般等のコースがあり、会員数 550 名である。
- ・ 一般コースの会員も徐々に増え、80 代の方まで幅広く参加している。  
自分の健康は自分で管理する、体を動かす楽しみをもちましようという活動が、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西と重なり、力を入れている。
- ・ コーチには高い水準の給与を支払い、トップアスリートのコーチもいる。  
アスリートのセカンドキャリアが不安定であるため、セカンドキャリアの充実にもなる。

#### 〔コーチ派遣〕

- ・ ①企業の場所を使い、社員が手伝う、②大学の場所を使って、大学が事務局をもつ、③行政が場所を貸して地元企業がお金を出す等、いろいろな形でコーチを派遣している。役割分担をしていろいろなスポーツができる仕組みができるとよい。

#### 〔スポーツによる地域活性化〕

- ・ 高齢化が進み、子供たちが減ってきた中で、まちづくりの一環で教育に力を入れている住之江区で、トップアスリートとして授業の中で指導している。学校だけではなく、近隣の住民に来てもらうイベントも行い、学校以外での広がりにつながっている。今後、実施した評価が課題である。

#### 〔まとめ〕

- ・ 東京オリンピックが終わったあと、多くのアスリートが引退するが、少しでもセカンドキャリア、経験を生かされる場所を増やすことで、子供たちや高齢者の健康につながり、良い循環につながる。
- ・ スポーツに関する活動については、イベントだけでは継続しないので、仕組みにしないといけない。

#### ○主な意見等

- ・ アスリートのセカンドキャリア対策について、行政がどこまでやるべきかが大事である。
- ・ 日本での地域総合型クラブの発展について
- ・ スポーツを地域の活性化、元気づくりにどう反映させるかについて
- ・ アスリートへの持続可能な行政の関わりについて
- ・ 学校の授業等、外部指導員の関わりについて
- ・ 人材育成や指導者の育成について
- ・ 陸上クラブの運営について  
大阪ガスと同じような仕組み・環境づくりを行政が行うことによるクラブ運営の可能性について
- ・ 人気のある競技との人材の取り合いがある。
- ・ 子供たちにスポーツをいろいろな体験をさせて伸ばしていけるような県での仕組みづくりについて

- ・ 中学校での今後の部活動のあり方について
- ・ 子供のスポーツ競技の適性を見極める仕組みづくりについて
- ・ オリンピック・ワールドマスターズ終了後のスポーツの盛り上がりの機運の継続について
- ・ 学校の部活動と陸上クラブの関係について
- ・ アスリートの育成における中学高校の先生の資質について
- ・ 住之江区での体育の授業での外部講師の指導の状況と授業に取り込むことへの課題について
- ・ 県での部活動の外部講師について  
アスリートのセカンドキャリアとしての可能性について
- ・ スポーツクラブ21について
- ・ 企業を軸にしたスポーツクラブについて

### (3) 事例調査について — 特定テーマに関するもの —

#### ① 管内調査（9月12日～13日：東播・淡路地区）

##### ○県立加古川西高等学校

柔道部に外部部活動指導員を配置しており状況について調査した。

- ・ 外部部活動指導員の配置の状況について
- ・ 外部部活動指導員の人材確保について

#### ② 管外調査（11月13日～11月15日：鹿児島・福岡）

##### ○ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅

スポーツ合宿の誘致に積極的に取り組んでいる陸上競技に特化した施設の合宿の受入体制等について調査した。

- ・ 施設ができた経緯
- ・ 3種の施設として最初から設置したか
- ・ 全体の広さとお金の出どころ
- ・ 合宿をする際の宿泊場所について
- ・ スタート時の指定管理のノウハウについて
- ・ 利用状況の見込みと結果
- ・ 県内と県外の利用状況や利用者の声
- ・ 誘致活動の実施状況と担当職員数

##### ○国立大学法人鹿屋体育大学

全国で唯一の国立4年生体育大学で、スポーツ指導者養成に向けた取組について調査した。

- ・ スポーツ指導者養成に向けたカリキュラム等について
- ・ 最新の測定機器の見学
- ・ 測定機器の使用状況・費用について

### ○北九州メディアドーム

イベント施設と競輪場の二つを融合させた全天候型の施設である。本来の競技場としての役割を果たしつつ、多目的での利用拡大を図る方策について調査した。

- ・ 収益状況について
- ・ イベントと競輪の実施比率について
- ・ 地域の運動会等地元への貢献について
- ・ 競輪の夜間実施の状況について
- ・ 競輪の購入形態について
- ・ 青少年やギャンブル依存症への対策について

### ○福岡県立スポーツ科学情報センター

体力づくり・選手強化の指導者や選手対象の研修会を主催するほか、運動能力に優れた小中学生を見出すタレント発掘事業を全国初に取り組んだセンターを調査した。

- ・ タレント発掘事業の選考方法等実施状況について
- ・ 体育協会等との連携について
- ・ 宿泊施設の稼働率について
- ・ 事業の課題について（野球・サッカーから他のマイナー競技に移りにくい。指導者が少ない。）等
- ・ 運営資金が足りているか。
- ・ 総合型スポーツクラブにどんな形で支援しているか。
- ・ 国体の県としての目標はどのくらいか。
- ・ ワールドマスターズゲームズ 2021 関西の周知度について
- ・ アスリートのトレーナーが必要になってくるのではないか。

## ③ 管内調査（1月22日～24日：但丹地区）

### ○県立村岡高等学校（県民（若い世代）との意見交換）

地域アウトドアスポーツ類型の生徒と意見交換を行った。

（意見交換）

- ・ 高校に入る前と後でのスポーツタイプの期待値と体験内容について
- ・ 特色を全国にもっと発信していく必要がある。
- ・ 高校を決めたときの他の候補について
- ・ 同級生等との接し方について
- ・ 行事への参加やボランティアをして価値観が変わったこと
- ・ 地域活動を通じて選挙や政治への関心について
- ・ 出身中学校による学ぶ姿勢の違いがあるか。
- ・ 将来、地元に戻りたい意識が強いのか。県外に出るか。

（質疑）

- ・ 特別な授業や通級もあるが指導者がうまくまわっているのか。
- ・ スキーはお金が掛かるが資金をどうしているのか。
- ・ 下宿の状況と下宿の補助について

### 3 今後の方向性

#### ○幼少期に体を動かせる場の整備

都市化や少子化に伴い、社会環境や人々の行動、生活様式が大きく変化し、子供にとって遊ぶ場所、遊ぶ仲間、遊ぶ時間の減少、そして交通事故や犯罪への懸念、騒音への懸念などによる体を動かして遊ぶ機会の減少を招いている。

文部科学省調査の結果から、外遊びの時間が多い幼児ほど運動能力が高い傾向がある。また、幼児期は、神経機能の発達が著しく、タイミングよく動いたり、力の加減をコントロールしたりするなどの運動を調整する能力が顕著に向上する時期である。この能力は、新しい動きを身に付けるときに重要な働きをする能力であるとともに、周りの状況の的確な判断や予測に基づいて行動する能力を含んでおり、けがや事故を防止することにもつながる。このため、幼児期に運動を調整する能力を高めておくことは、児童期以降の運動機能の基礎を形成するという重要な意味を持っている。

こうしたことを踏まえ、走る、跳ぶ、投げるなど基礎的運動能力が身に付くよう、安全に、かつ、持続的に幼児が体を動かせる場を幼稚園や保育所に加え、より身近な生活圏内に整備していく必要がある。

#### ○小学校から成人に至るまでのスポーツ環境の整備

運動部活動は、スポーツに興味・関心のある同好の生徒が参加し、各運動部の責任者（以下「運動部顧問」という。）の指導の下、学校教育の一環として行われ、我が国のスポーツ振興を大きく支えてきた。

また、体力や技能の向上を図る目的以外にも、異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒と教師等との好ましい人間関係の構築を図る、学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養に資するなど、生徒の多様な学びの場として、教育的意義が大きい。一方、「勝利至上主義」のイメージから部活動を敬遠し、入部に至らない生徒もある。そこで、各自のニーズに応じた運動・スポーツを行うことができるよう、スポーツクラブ 21 の取組の強化が必要である。

そもそも、通学校に希望する部活動がないことから部活動に入らない生徒もいることも踏まえ、広域的な部活動の導入について検討が必要である。

また、運動部活動がシーズン制であり、生徒の将来の活躍の可能性を広げる観点から複数の部活動に参加できるよう環境を整備していくことも必要である。

#### ○公立学校の現場（体育及び部活動）への民間のノウハウの導入

様々な運動を体感することで多様な感覚を身に付け、また、走・跳・投をさまざまな動きの中で身体を使って楽しく理解し、どんなスポーツにも対応できるようにするため、民間企業運営のスポーツクラブによる運動プログラムを小中学校の授業に取り入れることの検討が必要である。

また、地域のプロスポーツチームをはじめとするトップレベルのスポーツ組織による出前授業の実施など、基礎体力および技術力の向上を図ったり、トップアスリートの実演によるスポーツ競技への憧れや興味を引き出したりする取組も必要である。



## ○競技力向上

スポーツ人口の増加に伴う裾野拡大による競争環境の創出のほか、潜在能力の発掘のために学校単位での全県的なタレント発掘事業の実施、幼少期からの連続的な競技能力向上、スポーツでの活躍の可能性を広げる複線的なスポーツキャリア形成、科学的見地・根拠に基づいた指導を行える指導者の養成とともに全県的な競技能力向上のための部活動指導者を招いた講習会の実施が必要である。

また、科学的見地を取り入れた動作解析施設の整備の検討や県内企業との靴等の競技道具の共同開発も必要である。

## ○スポーツ人口の拡大

### a (競技の) 存在を知ってもらう。(Attention)

令和3年(2021年)に、WMGや同年夏への開催延期が決まった東京オリンピック・パラリンピック、令和4年(2022年)には、神戸市での世界パラ陸上競技選手権大会等、国内において世界規模のスポーツイベントが集中的に開催されることを契機に、トップアスリートのスポーツを観る機会を増やすとともに、スポーツイベントの県内・県外に対する効果的な発信を行う。

学校の授業や地域のイベントにおいて、体験コーナーを設ける、選手と触れ合う機会をできる限り多くつくるといったことも必要である。

### b 興味をもってもらう。(Interest)

スポーツシーンの動画を掲載した競技紹介サイトの開設やそのサイトに誘導するSNS広告を発信する。(再掲)学校の授業や地域のイベントにおいて選手と触れ合う機会をできる限り多くつくるとともに、競技実施による消費カロリー等、運動の効果を数字で明示し、体を動かすことがフレイル対策や健康寿命の増進にとって必要であることを強く認識してもらうことも必要である。

また、地域のプロスポーツチームをはじめとするトップレベルのスポーツ組織と連携した学校等への出前授業やイベントの開催により、興味を持ってもらうことも必要である。

### c したいと思ってもらう。(Desire) することをイメージし、記憶してもらう。(Memory)

自分でできるかどうかの不安を取り除き、自分でもできそうだと思う取組が必要である。そのため、ルールが複雑な競技においては、分かりやすく平易な表現で説明したルールブックの配布等により理解が促進するように努めるとともに、個人間で体力差や対応できるルールに差があることを考慮し、ルールの柔軟な運用や独自ルールの設定により、多くの人を楽しめる競技であることをPRする。加えて地域のイベントにおいて、VRやホログラムといった先端技術を用い、(疑似)体験してもらい、自身がスポーツをしていることをイメージさせ、正確に記憶を植え付ける。

### d 実際にしてもらう。(Action)

日時や場所の制約なく、気軽にスポーツができる機会を設け、環境を整えていくことが必要である。例えば、県立高校をはじめとする学校施設の夜間利用の促進など働く世代のために夜間・休日に運動に取り組みやすい状況の整備、スポーツ公園の整備や近所の公園における競技

別の利用時間の設定などである。また、運動の重要性、競技施設の効果的な活用、利用できる運動施設や地域の運動グループなどの情報提供等により、スポーツを継続させる環境を整えていくことが必要である。

また、新型コロナウイルス感染症等の感染拡大にあたり、家の中でも運動やスポーツができる環境整備が改めて課題として浮き彫りになった。そこで、子どもたちへの学習支援のみならず大人の運動不足解消の一助となることをめざし、家の中でできるダンス、筋力トレーニング等のコンテンツを充実させることが必要である。更には、離れた場所にいる人との臨場感あふれるスポーツの対戦や指導を可能にする5Gなどの先端技術の活用ができる環境を整えることも必要である。